

古文ドリル：「す・さす・しむ」（使役・尊敬）100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「す・さす・しむ」の2用法

「す」「さす」「しむ」は古文の助動詞で、**2つの意味**を持つ。

用法	訳	判別ポイント
① 使役	～させる	動作主が別の人
② 尊敬	お～になる	主語が高貴+下に尊敬語

接続

- **す**：四段・ナ変・ラ変の **未然形**
- **さす**：その他の **未然形**
- **しむ**：すべての動詞の **未然形**（漢文訓読体が多い）

識別の鉄則

1. 下に尊敬語（給ふ・おはす）＋主語が高貴 → 尊敬の二重敬語
2. 動作主が別の人 → 使役
3. 下に尊敬語がない → ほぼ確実に使役

特に「**せたまふ**」「**させたまふ**」「**しめたまふ**」は **二重敬語の典型**。

二重敬語の見分け方

尊敬の二重敬語： - 主語が帝・中宮・親王・摂関大臣など最高位 - 下に「給ふ」「おはす」が続く -
訳：「お～になる」「～なさる」

使役： - 主語が高貴でも、動作主が下の人 - 例：「家臣に書か**せたまふ**」 → 家臣が書く（使役）
→ 文脈で動作主を見極めることが重要。

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「す／さす／しむ」の直後に尊敬語があるかをまず見る

- 直後が「給ふ／おはす／たまふ／おはします」 → **尊敬の可能性大**（二重敬語）
- 直後が **尊敬語以外**（句点・他動詞・接続助詞） → **使役で確定**「～させる」
- これだけで6～7割が片付く。

コツ② 尊敬語が下にあっても動作主を見て使役か尊敬か決める

- 「せ給ふ／させ給ふ／しめ給ふ」が出てきたら、**主語＝動作主** か確認
- 帝・中宮・親王が **自分で** 動作している → **尊敬の二重敬語**「お～になる」
- 主語は貴人だが、別の人（家臣・女房）に **やらせている** → **使役＋尊敬**
- 「○○に書かせたまふ」のように「○○に」があれば使役確定。

コツ③ 「しむ」は漢文訓読体の合図

- 「しむ」を見たら出典が **漢文訓読・記録体・軍記** の可能性が高い。
- 訳語は基本「使役」優先。尊敬の「しむ」は出題例としては稀。

コツ④ 二重敬語が成立する主語の位置を覚える

- 天皇・上皇・院・中宮・東宮 → **二重敬語の対象**
- 摂関・大臣も対象になるが、文脈で「特別な尊敬」かを判断
- 一般貴族（中流以下）には二重敬語は使わない → **使役** で訳す

試験本番でのチェック順序

1. 直後に **尊敬語**（給ふ・おはす）があるか確認
 2. なければ → **使役で確定**
 3. あれば主語を見る → **最高位の貴人で自分が動作している** → 尊敬の二重敬語
 4. 「○○に」がある or 主語が動作していない → **使役**（尊敬語は別の人物への敬意）
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「**仰せらる**」は「仰す」自体が尊敬語で、その後の「らる」も尊敬。「す・さす」とは別物
- 「**せ給ふ**」が必ず二重敬語とは限らない → 動作主が別人なら使役＋尊敬
- 「**しめ給ふ**」は漢文系で出てくる二重敬語。和文ではあまり見ない

- 「思す (おぼす)」「仰す (おほす)」は一語の尊敬動詞で「す・さす」ではない

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

二重敬語の典型／単純使役を識別する基礎問題。

Q1. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に物を取ら**せ**たまふ。

答え：使役 **解説**：「取ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。動作主は家臣。「家臣に取らせなさる」。

Q2. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御文を書か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説**：「書か」未然＋「せ」（尊敬「す」未然）＋「たまふ」。主語が帝（高貴）。「お書きになる」。

Q3. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜ**させ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説**：「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然）＋「させ」（尊敬「さす」連用）＋「たまふ」。「ご覧になる」。

Q4. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。

子に勉強せしむ。

答え：使役 解説：「せ」（サ変「す」未然）＋「しむ」。下に尊敬語なし。「子に勉強させる」。

Q5. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御代を治めさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「治め」（下二段「治む」未然）＋「させ」（尊敬「さす」連用）＋「たまふ」。「お治めになる」。

Q6. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

弟に仕事を仕うまつらせけり。

答え：使役 解説：「仕うまつら」未然＋「せ」（使役「す」連用）＋「けり」。下に尊敬語なし。「弟に仕事させた」。

Q7. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、出でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「出で」（下二段「出づ」未然）＋「させ」＋「たまふ」。「お出になる」。

Q8. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

親、子に書を学ばしめけり。

答え：使役 解説：「学ば」未然＋「しめ」（「しむ」連用）＋「けり」。動作主は子。「子に書を学ばせた」。

Q9. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中納言、御文書かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「書か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が中納言（高貴）。

Q10. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、馬を走ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「走ら」未然＋「せ」（使役）＋「たまふ」。走る動作主は馬。

Q11. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

神、雨を降ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「降ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。神の力で雨を降らせる＝使役。動作主は雨そのもの。

Q12. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、嘆か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「嘆か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が帝。「お嘆きになる」。

Q13. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

子を眠ら**せ**たまふ。

答え：使役 解説：「眠ら」未然＋「せ」（使役）＋「たまふ」。眠る動作主は子。

Q14. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御琴弾か**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「弾か」未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が院（高貴）。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

朝廷、僧を召さ**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「召さ」（四段「召す」未然）＋尊敬の助動詞「す」連用「せ」＋尊敬の補助動詞「たまふ」。動作主は朝廷（呼ぶ主体）で、「お呼びになる」「お召しになる」と訳す尊敬の二重敬語。

Q16. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我が君、楽しませたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「楽しま」（四段「楽しむ」未然）＋「せ」＋「たまふ」。「お楽しみになる」。

Q17. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

老人、子に仕えまつらせたり。

答え：使役 **解説：**「仕えまつら」未然＋「せ」（使役）＋「たり」。下に尊敬語なし。「子に仕えさせていた」。

Q18. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪に苦しませたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「苦しま」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。主語が高貴な方、物の怪に苦しんでおられる。「お苦しみになる」。

Q19. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御階を上らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「上ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。「お上りになる」。

Q20. 次の傍線部「さす」を識別せよ。

兄に弟を慰めさす。

答え：使役 **解説：**「慰め」下二段未然＋「さす」（使役終止）。下に尊敬語なし。「兄に弟を慰めさせる」。

【第2部】 標準編 (Q21～Q50)

動作主の判別、敬意の方向、複合動詞下接など。

Q21. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女房に歌詠ま**せ**たまふ。

答え：使役 **解説：**「詠ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房。「女房に歌を詠ませなさる」。主語が高貴でも動作主が別人なら使役。

Q22. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、御車に乗ら**せ**たまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「乗ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は大臣自身。「お乗りになる」。

Q23. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

后、御簾を上げ**させ**たまふ。

答え：使役 **解説：**「上げ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。御簾を上げるのは女房等。「上げさせなさる」。

Q24. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜ**させ**たまへり。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**サ変「御覧ず」の未然形は「御覧ぜ」。未然形＋尊敬「させ」＋「たまへり」。中宮ご自身がご覧になる。

Q25. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、群臣をして政を執らし**め**たまふ。

答え：使役 **解説：**「執ら」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「をして～しむ」は漢文訓読体の使役の典型。動作主は群臣。

Q26. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御涙を流させたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「流さ」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。「涙をお流しになる」。

Q27. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、舎人に火をともしせたまふ。

答え：使役 解説：「ともさ」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は舎人。

Q28. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、僧をして経を読ませたまふ。

答え：使役 解説：「読ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は僧。

Q29. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、夢覚めさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「覚め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

Q30. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。

学を好ましむべし。

答え：使役 解説：「好ま」未然＋「しむ」（終止）＋「べし」。漢文訓読体。「学を好ませるべし」。

Q31. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御物思はせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝。「お思いになる」。

Q32. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

親、子に物言はさせつ。

答え：使役 解説：「言は」未然＋「させ」＋「つ」（完了）。下に尊敬語なし。「子に物を言わせた」。

Q33. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、人々を集めさせたまひて、酒を飲ませたまふ。

答え：（前者）使役／（後者）使役 解説：「集め」させて、また「飲ま」せている。動作主はそれぞれ家来・人々。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大将、内裏に参らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「参ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は大将自身。

Q35. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、笛吹かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「吹か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お吹きになる」。

Q36. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、人をして文ばこを持たせたまふ。

答え：使役 解説：「持た」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は人。「人に文箱を持たせなさる」。

Q37. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御簾の内に入らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「入ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は高貴な方ご自身。

Q38. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

后、僧に祈祷せさせたまふ。

答え：使役 解説：「せ」（サ変未然）＋「させ」＋「たまふ」。動作主は僧。「祈祷させなざる」。

Q39. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

人をして書かしめたまふ。

答え：使役 解説：「書か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「人をして～しむ」は漢文訓読体の使役。

Q40. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御独言を申させたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「申さ」未然＋「せ」＋「たまふ」。帝が独言を口にされる。

Q41. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、楽人に楽奏でさせたまふ。

答え：使役 解説：「奏で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は楽人。

Q42. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御車寄せさせたまへり。

答え：使役 解説：「寄せ」下二段未然＋「させ」＋「たまへり」。動作主は車副の者。

Q43. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御髪梳らせたまふ。

答え：使役 解説：「梳ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房（梳く者）。

Q44. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、御目開けさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「開け」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

Q45. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

国を治めしめたまふ。

答え：尊敬（漢文訓読体の最高敬意） 解説：「治め」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「しめたまふ」は漢文訓読体で最高敬語として用いられる。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、馬を引かせけり。

答え：使役 解説：「引か」未然＋「せ」＋「けり」。下に尊敬語なし。

Q47. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、人を待たせたまふ。

答え：使役 解説：「待た」未然＋「せ」＋「たまふ」。「人」を待たせる＝動作主は人。

Q48. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御簾の外に出でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「出で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は大臣自身。

Q49. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親、子に文学ばせたまふ。

答え：使役 解説：「学ば」（四段「学ぶ」未然）＋使役「す」連用「せ」＋「たまふ」。動作主は子。「子に書物を学ばせなさる」。

Q50. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、もてあそびて笑はせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「笑は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お笑いになる」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

文脈で動作主を判定する応用問題、敬意の方向の問い、源氏物語等出典系。

Q51. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、月を愛でさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「愛で」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

Q52. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、人々をして御遊び始めさせたまふ。

答え：使役 解説：「始め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人々。

Q53. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御物語せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「せ」サ変未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は中宮ご自身。

Q54. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝の御使ひに侍りせしに。

答え：（参考）過去「き」未然形「せ」 解説：これは「す・さす・しむ」ではない。「せ」は過去「き」未然形（「～せば」）。引っ掛け問題。

Q55. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、御身浄めさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「浄め」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

Q56. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

母、子の手を引かせつ。

答え：使役 解説：「引か」未然＋「せ」＋「つ」。下に尊敬語なし。「子の手を引かせた」。

Q57. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

主君、家臣に城を築かしめたまふ。

答え：使役 解説：「築か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は家臣。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御涙さしぐませたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「さしぐま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

Q59. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大将、人々を呼ばせたまふ。

答え：使役 解説：「呼ば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は呼ぶ役の者。

Q60. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、人をして御文届けさせたまふ。

答え：使役 解説：「届け」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人。

Q61. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御涙の浮かばせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「浮かば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は中宮自身（涙を浮かべる）。

Q62. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御文を取り出ださせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「取り出だ」未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御物の怪に取り憑かせたまふ。

答え：受身（補助動詞「たまふ」は尊敬を添える） 解説：「取り憑か」未然＋助動詞「す」連用「せ」＋「たまふ」。院が物の怪に取り憑かれるので主体性は物の怪側、訳は「物の怪に取り憑かれなされる」。「～される＋なされる」の受身＋尊敬補助動詞の組み合わせ。

Q64. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、若き女房に琴教へさせたまふ。

答え：使役 解説：「教へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝（教える側）か？文脈次第。多くは「教えさせる」（使役）と読む。

Q65. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御乳母に若宮を抱かせたまふ。

答え：使役 解説：「抱か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御乳母。

Q66. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、宴を催させたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「催さ」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は帝自身（催す主体）。

Q67. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御側近くに召し寄せさせたまふ。

答え：使役 解説：「召し寄せ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人（呼び寄せられる側を呼ぶ人）。

Q68. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、御念誦せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「念誦せ」サ変未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

Q69. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、童に文届けさせたり。

答え：使役 解説：「届け」下二段未然＋「させ」＋「たり」。下に尊敬語なし。動作主は童。

Q70. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、御袖を顔に押し当てさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「押し当て」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

Q71. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

国王、神に祈らせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「祈ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は国王自身。「お祈りになる」。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、舞人に舞はせたまふ。

答え：使役 解説：「舞は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は舞人。

Q73. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御消息聞こえさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「聞こえ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は中宮自身。最高敬意の例。

Q74. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、近臣をして御使ひに行かしめたまふ。

答え：使役 解説：「行か」未然＋「しめ」＋「たまふ」。「をして～しむ」漢文訓読の使役。

Q75. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御簾の内に座させたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「座さ」サ変未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。

Q76. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御乳母に童を遊ばせたまふ。

答え：使役 解説：「遊ば」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は童。乳母が遊ばせる。

Q77. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、御物思ひ晴らさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「晴らさ」四段未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。

Q78. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御車に乗り換へさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「乗り換へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。

Q79. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親王、御涙ぬぐはせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「ぬぐは」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は親王自身。

Q80. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女御を御所に住ませたまふ。

答え：使役 解説：「住ま」（四段「住む」未然）＋使役「す」連用「せ」＋「たまふ」。動作主は女御。「女御を御所にお住ませなさる」。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出の文脈判定・敬意連動・誤読しやすい問題。

Q81. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上は、いと思しめし嘆かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思しめし嘆か」未然＋「せ」＋「たまふ」。「思しめす」自体最高敬語、さらに「せたまふ」で二重敬語。源氏物語典型。

Q82. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御使ひを召して、急ぎ宮中へ参らせたまふ。

答え：使役 解説：「参ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御使ひ。「使者を参上させなさる」。

Q83. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御娘を入内させたまふ。

答え：使役 解説：「入内さ」サ変未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は御娘。「娘を入内させなさる」。

Q84. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、夜もすがら御文書かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「書か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。「夜通しお書きになる」。

Q85. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御乳母、若宮を御湯浴みさせたまふ。

答え：使役 解説：「湯浴みさ」サ変未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は若宮。乳母が湯浴みさせる。

Q86. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御乳母をして御文奉らせたまふ。

答え：使役 解説：「奉ら」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は乳母。「奉らせなさる」。

Q87. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いとあはれに思しめさせたまへり。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「思しめさ」未然＋「せ」＋「たまへり」。最高敬語の典型。

Q88. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、御位を譲りさせたまひぬ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「譲り」未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。「ご譲位なさった」。

Q89. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大将、人をして御消息伝へさせたまふ。

答え：使役 解説：「伝へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は人。

Q90. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

後の宮、御覽ぜさせおはします。

答え：尊敬（最高敬語） 解説：サ変「御覧ず」の未然形は「御覧ぜ」。未然形＋尊敬「させ」＋「おはします」（最高敬語の補助動詞）。動作主は後の宮自身。

Q91. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、貴族をして御階を上らしめたまふ。

答え：使役 解説：「上ら」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は貴族。漢文訓読体使役。

Q92. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、姫君を御膝に乗せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「乗せ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は院。「(姫君を)膝にお乗せになる」。

Q93. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、池の鯉を女房に養はせたまふ。

答え：使役 解説：「養は」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は女房。

Q94. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御心地悩ませたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） 解説：「悩ま」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は上自身。「お悩みになる」。

Q95. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、御娘の入内を急がさせたまふ。

答え：使役 解説：「急が」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は周りの人々（入内の準備をする者）。

Q96. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、いみじう泣かせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「泣か」未然＋「せ」＋「たまふ」。動作主は院自身。「ひどくお泣きになる」。

Q97. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御所のしつらひ整へさせたまふ。

答え：使役 **解説：**「整へ」下二段未然＋「させ」＋「たまふ」。動作主は家人。

Q98. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、家人に御琴のしらべ整へさせたまふ。

答え：使役 **解説：**「整へ」（下二段「整ふ」未然）＋使役「さす」連用「させ」＋「たまふ」。「家人に」が動作主を明示している。「家人に御琴の調子を整えさせなざる」。

Q99. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

国家を平らかに治めしめたまふ。

答え：尊敬（最高敬語、漢文訓読体） **解説：**「治め」未然＋「しめ」＋「たまふ」。動作主は天子自身。漢文訓読体での最高敬意。

Q100. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、いと細やかに御物語せさせたまふ。

答え：尊敬（二重敬語） **解説：**「せ」（サ変未然）＋「させ」＋「たまふ」。動作主は帝自身。源氏物語の典型構文。

入試レベル / 20

採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎 (Q1～Q20)	20	
標準 (Q21～Q50)	30	
応用 (Q51～Q80)	30	
入試 (Q81～Q100)	20	
合計	100	

- 80点以上：完璧。源氏物語の最高敬語も読める
- 60～79点：標準合格レベル
- 40～59点：基礎は固まっている。応用編を反復
- 39点以下：「せたまふ」「させたまふ」の二重敬語パターンを再確認

あとがき

「す・さす・しむ」識別の核心： - 二重敬語「せたまふ」「させたまふ」は古文の最頻出 - 主語が高貴 + 下に尊敬語 + 動作主が同じ → 尊敬 - 動作主が別人 → 使役（主語が高貴でも！） - 「しめたまふ」は漢文訓読体の最高敬意

源氏物語・枕草子の宮中文学に頻出。これを押さえると、敬語表現が一気にクリアになる。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太